

ICTを活用した教育体制構築に関する実証事業 報告書 (別紙)

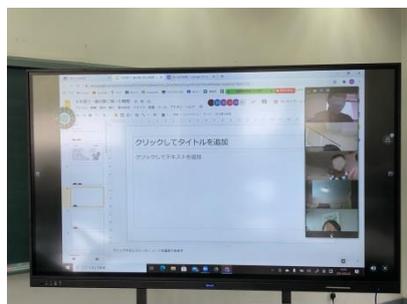
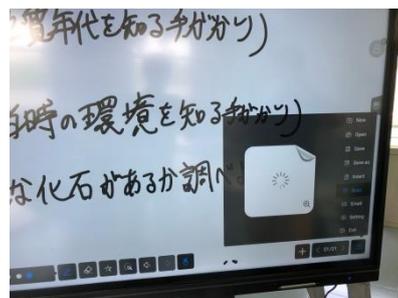
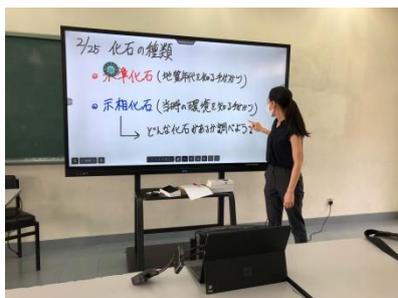
7. 取組の成果

(※どのような課題をどのように解決したかや、生徒・児童への効果等について詳細に記載し、成果物があれば添付してください。また成果がどのような観点で他の学校の参考になるかも記載してください。)

【電子黒板と大型モニター】

zoom 授業で黒板に板書を書くと、全体を映すと見えづらく、アップにするとごく一部しか映せず、児童生徒にとって分かりづらくなってしまっていた。そこで、電子黒板や大型モニターを活用することで、大きく映したりページの切り替えをしたり、児童生徒の画面を確認したりすることが容易になった。さらに、教材の提示もしやすくなり、質の高い授業を行いやすくなった。

さらに、電子黒板の機能により、板書を容易に配信できるようになった。電子黒板のホワイトボードに書いたものを QR コードにし、それをスキャンすることでブラウザで板書を確認できるようになった。教師が QR コードを読み取って配信することも、児童生徒自身が読み取って保存することもできる。また、以前の板書をフォルダに保存することができ、前時までの学習を振り返る際に素早く提示することができることもメリットの一つである。



8. 今後の課題・展望

(※次年度以降への継続性及び発展性に言及してください。)

【今後に向けて】

・マレーシア政府による行動制限令のため休校が続いているが、学校再開時にはさらに活用の幅が広がる。黒板の板書と電子黒板や大型モニターを組み合わせることで、より工夫した提示の仕方ができるようになる。児童生徒の iPad や chromebook をミラーリングしたり、その画面上に書き込んでいたりすることもでき、児童生徒の考えを中心に学習を展開しやすくなる。

・電子黒板は、大きい・重い・高価なため台数が少ないというのが欠点であり、どの教室で利用するのがより良いのか検討の余地がある。例えば体育では、児童生徒の動きを iPad で撮影して電子黒板に映し、そこに書き込んだり、You tube の手本動画につないだりという利用の仕方もある。各種行事での利用もできるた

め、体育館に設置する効果は大きい。一方で、物がぶつかって破損する危険性も高い。今後は、より良い設置場所を考えたり、さらなる活用方法を考えたりして、質の高い教育を行っていきたい。

※提出いただいた報告書や成果物は、本事業の取組成果として公開する予定です。また、記載いただいた内容は文部科学省や海外子女教育振興財団のその他の資料にも使わせていただく可能性があります。

※記入欄は適宜拡張してください。